

2/26 金 13:30~15:30(13:00開場)
津市ビジネスサポートセンター

これから創業を考えている人のための入り口として、和やかな学びと交流の場・ビジネスカフェを開催します。

今回は、「あなたのしたいことを人に伝えて、アイデアの『たね』をみんなで育てませんか?」と題し、創業相談専門家の高原祥子さんによるアドバイスや創業プチセミナー、グループワークを行います。

定員 10人

申し込み 電話またはEメールで、住所、氏名、電話番号を
経営支援課(☎229-3360@city.tsu.lg.jp)へ



津市ホームページ
ビジネスカフェ

高原祥子

(津市ビジネスサポートセンター経営相談員・
社会保険労務士・株式会社サンプラス取締役)

「Mie女性起業支援室」の設立
メンバーとして、女性の創業相談
や創業に関するセミナー開催な
どの事業を行っている。

県内各市、大学、公的機関との
幅広いネットワークを生かして、
創業、経営、働き方改革など、多く
のセミナーでの講師実績がある。



シリーズ 人権

第91回

ひとりの大人として

ニュースなどで、新型コロナウイルス感染症の影響で子どもたちが不安になったり、虐待を受けたりしているということを目にしました。このような社会状況の中で、今回子どもの人権というテーマについて執筆するに当たり、自分の子どもの頃を振り返ってみると、思い出される出来事のひとつに高校時代の経験があります。

私は高校時代、合唱部に所属していました。合唱は楽しかったのですが、部活の人間関係に悩んでいました。当時、私は親にそのことを相談できずにいました。余計な心配を掛けたくない、家族からの期待や応援を裏切りたくないという気持ちでいっぱいでした。

もともと私は一人で悩み、誰にも相談できずに抱え込んでしまうところがあります。とにかくつらく、ストレスから体調を崩し、学校を休みがちになりました。その中で、一人の友人に自分の悩みを聞いてほしいと思うようになりました。その友人とは所属する部活は異なっていたものの、入学当初から親しくしていました。以前から彼女の部活における人間関係の悩みを聞くことがあり、自分と置かれた立場や部活動に対する考え方が似ていることなどを知りました。そこで、彼女なら私の気持ちに寄り添ってくれるのではないかと思います。自分の悩みを打ち明けました。彼女は親身に

なって話を聞いてくれ、温かく受け止めてくれました。時には共感し、慰めてくれ、私の気が済むまで話を聞いてくれました。

彼女に話しても、同じ部活に入って悩みを解決してくれたわけではありません。つらい状況そのものは変わりませんでした。けれど、自分のつらい気持ちを聞いてくれる人がいて、本当に良かったと思います。自分の気持ちを知らうとしてくれる人がいること、話を聞いてくれる存在がいること、それだけで安心でき、少し心が軽くなった気がしました。子どもたちにとって、悩みから救ってくれる存在は、家族や友人、学校の先生など身近な人なのかもしれませんが、子どもによってさまざまだと思います。

悩んでいることに具体的に対処して、つらい状況そのものを変えることがたとえできなくても、自分の話を聞いてくれる、もっといえば話を聞いてもらわなくても、自分のことを大切に思ってくれる人がいること、一緒に笑って、安心して過ごせる存在がいることを感じられるだけで、心が少しでも軽くなるのではないのでしょうか。

私は一人の大人として、今の社会状況の中で、子どもたちがどのような不安や悩みを抱えているのかということに思いをはせて、そのような子どもの気持ちに寄り添えるようになりたいと思います。
(20代・女性)